

商品別見通し(輸出)

(商品別輸出)

2015年12月3日(木)

品目	2014年度 (実績)		2015年度 (見込み)				2016年度 (見通し)				コメント	
	10億円	伸び率%	上半期		下半期		10億円	伸び率%	10億円	伸び率%	2015年度	2016年度
			(実績)	伸び率%	(見込み)	伸び率%						
総額	74,670	+5.4%	37,759	+5.2%	38,103	▲1.7%	75,861	+1.6%	↑	77,387	+2.0%	3年連続増加。 4年連続増加。
EX 01 食料品	515	+14.9%	289	+24.4%	346	+22.7%	635	+23.5%	↑	712	+12.0%	円安進行による数量・価格の押し上げ効果、日本産品に対する需要の高まりから、輸出金額は増加。 引き続き日本産品による需要が高く、円安状態も続くことから、輸出数量は伸び、輸出金額も増加。
EX 02 原料品	1,201	+2.4%	591	▲3.3%	555	▲6.0%	1,146	▲4.6%	↑	1,174	+2.5%	金属鉱及びびくず: 国内需給が緩和していることから価格が伸び悩み、中国経済の鈍化による主要輸出相手先である韓国、中国からの引き合いが鈍化し、輸出金額は減少。 生ゴム(合成ゴム): 中国経済の減速を背景に輸出数量が減少し、輸出金額は減少。 織物用繊維及びびくず: 中国での原料工場の事故により需給環境が一時的に逼迫(ひっばく)し輸出数量が伸びるため、輸出金額は増加。 国内需要の回復が低位にとどまる中、各社は輸出を増やしており、数量は微増。原油価格の下落に伴い、主要輸出品である揮発油や軽油の単価も低下しており、輸出金額は減少。
EX 03 鉱物性燃料	1,441	▲13.5%	673	▲9.5%	431	▲38.2%	1,104	▲23.4%	↑	1,131	+2.5%	国内需要の伸びは限定的で引き続き需給は緩和的に推移し、石油製品輸出量は2015年度並み。原油価格の底打ちにより輸出単価は小幅上昇し、輸出金額も微増。
EX 04 化学製品	7,839	+1.9%	3,871	+2.4%	4,037	▲0.5%	7,908	+0.9%	↓	7,750	▲2.0%	主要石油化学製品のエチレン換算輸出量は高水準を持続。中国経済の減速や原油価格の変動等に起因する買い控えの発生が懸念材料だが、いまのところ大きな影響とならない見通し。一方で国内エチレン生産設備の稼働率は高水準にあることから、一段の輸出余力は大きくない。 2015年度並み。2017年4月の消費税率引き上げを前に国内需要の増加で輸出余力が低下する影響を見込む。ただし、一部品目を除くと主要輸出先が中国もしくは韓国である品目が多く、中国経済の先行き次第で数量の減少幅が想定以上に拡大するリスクがある。
EX 05 原料別製品	9,618	+4.2%	4,650	▲1.8%	4,424	▲9.4%	9,074	▲5.7%	→	8,992	▲0.9%	アジア向け製品の価格低迷と需要の伸び悩みで輸出金額は減少。 2015年度並み。
鉄鋼	4,004	+3.7%	1,825	▲6.0%	1,779	▲13.8%	3,603	▲10.0%	↓	3,534	▲1.9%	アジア全体で需要が低迷していることから、下半期の輸出は、上半期から若干減少。 中国の過剰生産能力による供給圧力が依然強く、市況低迷が続く。 2015年度並み。市況は引き続き厳しい状況が続く。
非鉄金属	1,493	+7.7%	739	▲0.9%	658	▲11.9%	1,397	▲6.4%	↑	1,419	+1.5%	生産拠点の海外移転に伴い輸出数量は減少。 市況低迷に加え、加工賃の下落の影響で輸出単価は低下。 2015年度並み。
織物用糸・繊維製品	710	+6.5%	369	+5.3%	362	0.8%	731	+3.0%	↑	760	+4.0%	円安傾向が継続していることに加えて、一部の繊維製品の輸出が好調のため、輸出金額は引き続き増加。具体的には欧州向けの衣料用繊維類や北米向けの自動車関連資材が好調。 円安傾向の持続や海外景気を持ち直しを背景に高付加価値品を中心として輸出金額の増加傾向は維持される見込み。
非金属鉱物製品	893	+2.2%	448	+0.2%	442	▲1.0%	889	▲0.4%	↓	845	▲5.0%	ガラス: 中国経済の減速を背景とするアジア地域での需要の鈍化などが輸出数量を押し下げ、金額は減少。 セメント: 建築費高騰等を背景に国内での着工案件が増加しないため、輸出に振り向けられ、輸出金額は増加。 2015年度並み。
ゴム製品	1,031	+0.0%	504	▲2.8%	467	▲8.9%	971	▲5.8%	→	965	▲0.7%	約7割を占めるタイヤを中心に3年ぶりの減少。世界的な生産能力拡大が続くタイヤ市場では、海外経済の減速を受けて一層の供給過剰状態に。それが世界的な価格押し下げ、さらには日本勢の輸出抑制につながっている。 減少が続く。世界タイヤ市場の供給過剰が続く他、円安ペースも弱まるため、価格は円ベースで下落に転じる。海外経済の持ち直しに伴う数量の回復力も限られる。
EX 06 一般機械	14,512	+6.3%	7,161	+3.1%	7,375	▲2.6%	14,536	+0.2%	↑	14,779	+1.7%	円安により価格が上昇するものの、新興国経済の減速、IT関連需要の低迷などから数量は減少し、金額はほぼ横ばい。 2014年度に大幅に増加した金属加工機械はアジアにおけるスマートフォン向けの設備投資需要の一段落から減少。建設用・鉱山用機械も米国のシェール関連投資の停滞などから減少を見込む。 世界経済やIT関連需要の緩やかな回復を背景に、金額は増加を見込む。
原動機	2,582	+2.0%	1,273	+4.7%	1,352	▲1.1%	2,625	+1.7%	↓	2,546	▲3.0%	車両用エンジンの生産拠点の海外シフト、新興国経済の減速の影響等から数量減少が継続するものの、円安に伴う価格上昇により金額は増加。 海外生産の継続、海外メーカーとの価格競争激化等から輸出金額は2015年度比減少を見込む。
EX 07 電気機器	12,996	+6.3%	6,727	+7.4%	6,874	+2.1%	13,601	+4.6%	↑	14,170	+4.2%	世界的にスマートフォンの成長は鈍化しているが、機能向上による増加が見込まれる。しかし、半導体デバイス大型投資の一巡やエネルギー関連投資の減少などで伸びは鈍化。 モバイル関連機器の需要は堅調の見通しで、モバイル関連機器向け最先端プロセスへの投資は継続。また、カーエレクトロニクスやIoT関連などの需要増も期待できる。
半導体等電子部品	3,816	+6.6%	2,025	+9.8%	2,050	+4.0%	4,075	+6.8%	↑	4,310	+5.8%	世界的にスマートフォンの成長は鈍化しているが、機能向上による電子部品の付加価値向上および部品搭載数の増加のため、またカーエレクトロニクス向けに輸出金額は増加。 スマートフォンの機能向上およびウェアラブル機器、ヘルスケア機器向けに加え、M2MなどIoT関連の需要増で、サーバーや通信インフラ、カーエレクトロニクス、産業機器等で輸出金額は増加。
電気計測機器	1,432	+6.8%	738	+5.9%	748	+1.8%	1,486	+3.8%	↑	1,560	+5.0%	半導体デバイス大型投資が一巡し、2015年下半年から伸びが低くなる。 モバイル関連機器の需要は堅調であり、最先端プロセスへの投資は継続され、輸出金額は増加。
EX 08 輸送用機器	17,278	+4.6%	8,866	+7.4%	9,108	+1.0%	17,974	+4.0%	→	18,115	+0.8%	欧米向け自動車輸出が堅調に推移することや、円安の影響で船舶輸出金額が増加することから4.0%の上昇。 新興国経済の停滞による自動車輸出の伸び悩みや、円安の影響の剥落で横ばい。
自動車	11,191	+5.4%	5,867	+9.0%	5,888	+1.4%	11,755	+5.0%	↑	11,879	+1.1%	欧米向けが堅調に増加する一方、中国・ロシア向けが減少し、数量ベースでは微減。円安要因もあり金額ベースは5.0%の増加。 欧米向けは堅調だが、新興国向けが伸び悩み微増。
自動車の部分品	3,505	+0.4%	1,732	+0.6%	1,731	▲2.9%	3,463	▲1.2%	→	3,454	▲0.3%	現地調達で数量減少、円安効果で金額は微減。 現地調達あるいは第三国調達の加速で横ばい。
船舶	1,341	+0.5%	661	+10.0%	879	+18.7%	1,540	+14.8%	↑	1,627	+5.7%	船舶は受注による計画生産。注文数の増加および円安の影響を見込む。 注文数の増加と円安の影響を見込む。ただし、一部の船腹過剰感によるデリバリー遅延を懸念。
EX 09 その他	9,271	+12.3%	4,932	+14.1%	4,953	▲0.1%	9,885	+6.6%	↑	10,564	+6.9%	科学光学機器の減少等から、伸びが鈍化。 科学光学機器が横ばいにとどまる他、円安ペースが鈍化する中で、全体の伸びは2015年度並みにとどまる。
科学光学機器	2,482	+9.1%	1,171	▲2.6%	1,172	▲8.4%	2,342	▲5.6%	→	2,347	+0.2%	米国・欧州向けは堅調に推移するも、主要輸出先である中国・NIEs向けが大幅減少し、全体では減少。 回復傾向は見られるものの、中国経済の鈍化で中国・NIEs・ASEAN向けが伸び悩み、横ばいにとどまる。

\*2015年度上半期の実績は確報ベース、金額は表示単位未満を四捨五入しているため計算が合わないことがある。

\*「↑」は前年度比増加、「↓」は減少、「→」は横ばい(前年度比±1%未満)を表している。